

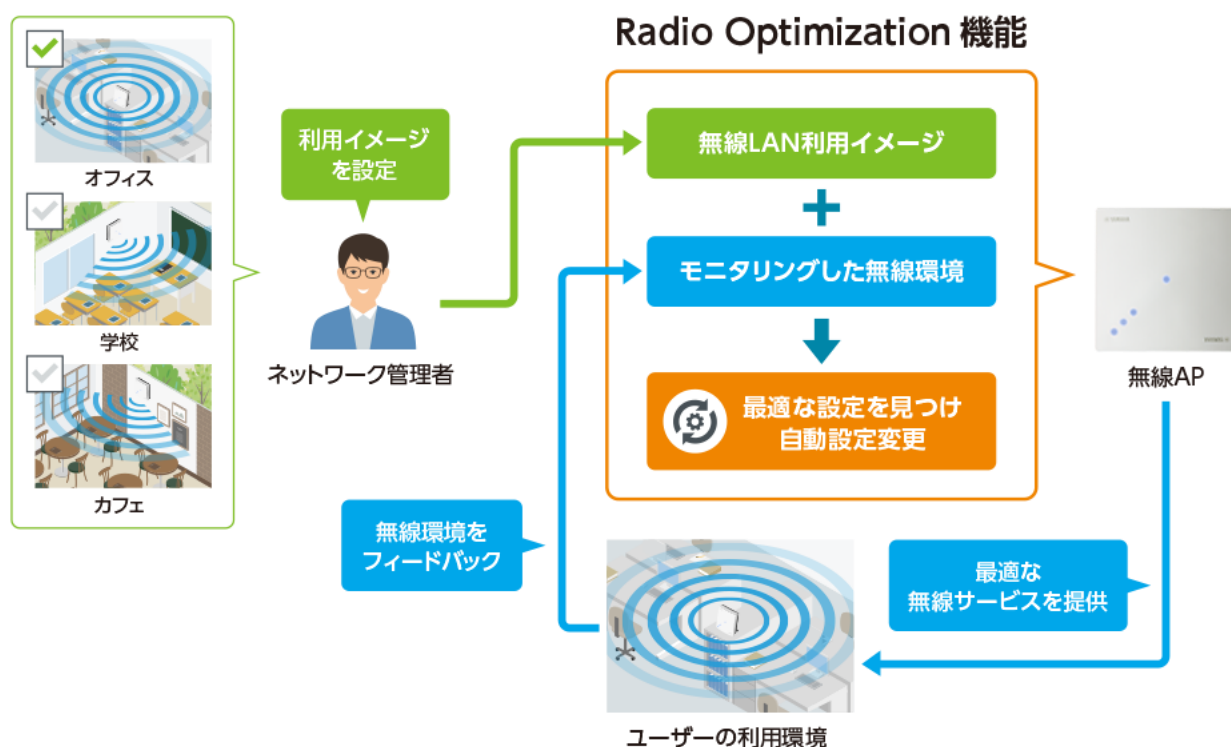
## ヤマハ無線LANアクセスポイントの新機能

### 『Radio Optimization機能』に対応したファームウェアを公開

～ 無線環境を学習し最適化することでトラブルを未然に防ぎ、運用管理の効率化を実現 ～

ヤマハ株式会社は、独自に開発した新機能『Radio Optimization機能（以下、RO機能）』（特許出願済み）に対応する無線LANアクセスポイント「WLX212」用の最新版ファームウェアを2022年1月13日（木）に公開します。「WLX413」用のファームウェアは2022年1月末に公開予定\*です。

※予定は前後する可能性があります。



近年、業務における無線LAN環境の拡大とともに、「通信が途切れる」や「通信が遅い」などのトラブルも増加しています。従来、このようなトラブルを解消するためには、高度な専門知識を持つネットワークエンジニアが必要とされ、対応にも多くの時間を費やしていました。

今回、無線LANアクセスポイント「WLX413」「WLX212」のファームウェアアップデートで提供する『RO機能』は、無線LANアクセスポイント本体が周辺の無線環境をモニタリングしながら、ネットワーク管理者が想定する無線LANの利用イメージに近づくように、設定を無線環境に合わせて動的に変更し最適化する機能です。設定の最適化においては、当社がこれまでのお客様サポート業務で蓄積したトラブルシューティングノウハウを判断基準の一部として利用しています。

本機能により、トラブルを未然に防ぎながら、高品質な無線LAN環境を構築・保持することが可能です。また、トラブル解消時に高度な専門知識を必要としないため、無線LANの運用管理にかかる人的・時間的コストの削減にもつながります。無線LANの運用方法がわからない方や、無線LANのトラブルが多い環境でお困りの方に最適な機能です。

詳細な仕様については技術資料をご参考ください。

技術資料 : <http://www.rtpo.yamaha.co.jp/AP/docs/wlx212/radio-optimization.html>

### <利用開始方法>

1. 仮想コントローラーの Web GUI の [無線設定] - [基本無線設定] ページにアクセスしてください。
2. 『Radio Optimization 機能』を「使用しない」から「使用する」に変更してください。
3. 無線 LAN 導入先の利用イメージを以下の 2 つから選択してください。
  - 一般：一般的なオフィス利用で事務作業や遠隔会議が快適に利用できる環境
  - 大容量：学校などで多数の端末が同時に動画を再生する環境
4. [設定送信] ページから設定を送信してください。

| Radio Optimization機能 |  |
|----------------------|--|
| Radio Optimization機能 | <p>使用する ▼</p> <p>⚠ 本機能を有効にすると以下の制限がされます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一部の設定項目で手動での設定変更ができなくなります。</li><li>・「設定変更時刻」で設定した時間になると無線が数分停止する可能性があります。</li></ul>  |
| 無線LAN利用イメージ          | <p><input checked="" type="radio"/> 一般<br/>一般的なオフィスなどでの利用を想定し「事務作業や遠隔会議が快適に利用できる」程度のスループットを提供します。具体的には、無線端末1台あたりの速度が5Mbpsを下回らないよう自動設定変更します。</p> <p><input type="radio"/> 大容量<br/>学校などでの利用を想定し「多台数で同時に動画を視聴しても快適に利用できる」程度のスループットを提供します。具体的には、無線端末1台あたりの速度が20Mbpsを下回らないよう自動設定変更します。「一般」を選択したときよりも、レーダー検波による接続断の可能性が高くなります。</p> |
| 設定変更時刻               | <p>毎日 3 時 0 分</p> <p>※ 本機能による設定変更には、無線を停止せず即時に行うものと、無線を停止して定時に行うものがあります。本項目では、定時に設定変更する時刻を設定します。</p>   |

### <動作状況の確認方法>

1. 仮想コントローラーの Web GUI のトップページにアクセスしてください。
2. クラスターAP 一覧から、各 AP の 1 日の『RO 機能』による自動設定変更の回数が、過去 7 日間にわたって確認できます。合わせて、接続端末数やスループットの遷移も確認でき、『RO 機能』による設定変更の効果を把握できます。



3. より詳細に『R0 機能』による設定変更内容を確認したい場合は、仮想コントローラーの Web GUI の「保守」－「Radio Optimization 機能」から確認できます。

| 変更日時             | 機器名称    | タイプ           | 説明   |
|------------------|---------|---------------|--|
| 2021/11/15 10:30 | WLX413_ | 5GHz(2) 動作モード | レーダー検波頻度が少ないため、5GHz(2) の動作モードを Fast DFSモードからノーマルモードに自動変更しました。                |
| 2021/11/15 10:32 | WLX212_ | マルチキャスト送信レート  | 低レートフレームのAir timeの割合が大きいため、2.4GHz のマルチキャスト送信レートを 1 Mbps から 2 Mbps に自動変更しました。 |
| 2021/11/15 10:32 | WLX212_ | 受信レート         | 低レートフレームのAir timeの割合が大きいため、2.4GHz の受信レートの最低値を 1 Mbps から 2 Mbps に自動変更しました。    |
| 2021/11/15 10:33 | WLX413_ | RADIUS再認証間隔   | 特定の端末がRADIUS再認証失敗を繰り返しているため、RADIUS再認証間隔を 12 時間 から 24 時間に自動変更しました。            |

■ 報道関係の方のお問い合わせ先

ヤマハ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 担当：佐藤 TEL. 03-5488-6605

■ 一般の方のお問い合わせ先

ヤマハルーターお客様ご相談センター TEL. 03-5651-1330  
ウェブサイト <https://network.yamaha.com/>